

し ぶ い か す お
渋井一夫

渋井一夫（1933～1996）は、昭和37（1962）年に石狩浜に住所を移し、住居とアトリエを備えた「石狩画廊」を開きました。石狩の海をこよなく愛し、一年中石狩画廊を訪れる人を迎え入れ、本町地区の人たちとの交流も深いものでありました。また、冬でも海水パンツ一枚で過ごすことから「裸の画家」とも言われていました。

作風は海をテーマにした絵に詩を添えた独自のスタイルで、「自分の絵に、詩を書き、自分で写真を撮り、それが一つになって作品がうまれる」と自ら語っていました。石狩浜を中心に北海道沿岸、日本沿岸、南・北フランス海岸と海岸沿いを製作旅行し、昭和37（1962）年から、毎年札幌で個展を開催している他、詩画集、写真集、エッセイ集等の著書も多数発行しています。

昭和42（1967）年から石狩町の観光ポスターを製作寄贈するほか、絵ハガキ、公刊行物、文芸誌書の装丁協力作成などの他、石狩浜に「ハマナスを大切に」という看板を自費で立て、海浜植物保護もしていました。

平成8（1996）年1月、石狩画廊で死去。葬式は本町の能量寺で行われ、石狩画廊は同年5月に取り壊されています。また、遺族の方から石狩市に、絵画335点、色紙36点、写真29点が寄贈され、石狩観光協会が管理保管をしています。石狩市総合福祉センター「りんくる」階段ギャラリーにおいて、渋井一夫の経歴紹介と17点の絵画が展示されています。



渋井一夫の作品（りんくる階段ギャラリー）

（三島照子）

昭和8（1933）年□ 樺太に生まれる

□ その後札幌商業高等学校・北海学園大学卒業

昭和34（1959）年□ 現代美術協会展初入選、現代美術協会会員

昭和37（1962）年□ 二科展奨励賞受賞

昭和42（1967）年□ 11年間勤めた旧北海道拓殖銀行を退職し、石狩浜に石狩画廊を開く
□ 観光ポスターを製作し、石狩町への寄贈を始める

昭和60（1985）年□ 石狩町産業経済功労賞受賞

平成4（1992）年□ 石狩画廊25周年記念個展開催

平成8（1996）年□ 石狩画廊にて死去。享年62歳

□ 渋井一夫詩画巡回展が市内4か所で開催される

（1）渋井一夫（1994）いしかりの四季エッセイ集A.

（2）石狩市商工労働観光課提供資料